

令和3年度原子力規制委員会行政事業レビューに係る公開プロセス
(取りまとめ評価)

事業番号	012	事業名	原子力安全情報に係る基盤整備・分析評価事業				
評価の集計							
現状通り		事業内容の一部改善	6	事業全体の抜本的な改善		廃止	
コメント							
<p>(事業成果の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 規制活動の改善可能性を俯瞰的な立場から日常的に検討する活動がみえない。リスクの全体像に関する情報を体系的に収集・整備し、重要なリスク寄与因子や不確実さ因子を分析するため、リスク評価結果に関する情報を体系的に収集・整理するべき。【村松先生】 <p>(システムの改善等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成や検査を担当する部署からの意見を踏まえ、情報収集、発信、データベース構築などに取り組むべき【飯島先生】 ● 過去に取得したデータベースを活用した傾向分析やリスク評価の手法を用いた重要度分析(ASP研究など)を組み合わせることで安全性向上のための提案又は検討課題の提案を行う常設的な活動が必要であるため、これを効率的に行えるようなシステム構成とすべき。【村松先生】 ● 安全審査関連データベースについて、地方の規制事務所からのアクセスを可能にするべき。【川澤先生、水戸先生】 ● データベースとスクリーニングシートの関連付けと入力作業の効率化が必要。【川澤先生】 <p>(アウトカム目標の設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 職員によるデータベースへの単純なアクセス数ではなく、アクセスした結果、有効な情報を取得できた件数をアウトカム情報とするべきか。【飯島先生、石堂先生】 ● アウトカム目標を毎年度見直すべき。その際、外部的な視点も導入し、コントロール可能な目標とすること。【吉田先生】 <p>(レビューシートの記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策」については、「支出額10億円以上」の契約に限らず、事業規模に応じて、記載対象を拡大すべき【吉田先生】 ● 各契約について、どのような分け方で契約を分割しているのか、重複や無駄はないのかがわかるように工夫すべき【水戸先生】 <p>(原子力規制委員会の契約方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2者以上の一般競争契約の割合の低さ、競争性のない随意契約の割合の高さが際立つ。原子力規制庁のアクションプランを踏まえて、要因分析、それに基づく方策、さらに各方策の有効性を体系的に検討する必要がある。【飯島先生】 ● 契約方法等について、原子力規制庁における内部統制を可能な範囲で開示し、一定金額以上の案件については、契約先の決定プロセス等を残しておくべき。【吉田先生】 							